

- 1 派遣期日 平成23年11月12日(土)
- 2 研修先 学校名(会場名) 奈良県奈良市立平城西中学校
所在地 奈良県奈良市神功2丁目1番地
<http://www.naracity.ed.jp/heiounishi-j/>
学校名(会場名) 奈良県奈良市立右京小学校
所在地 奈良県奈良市右京4丁目11番地の1
<http://www.naracity.ed.jp/ukyou-e/>

3 研修内容

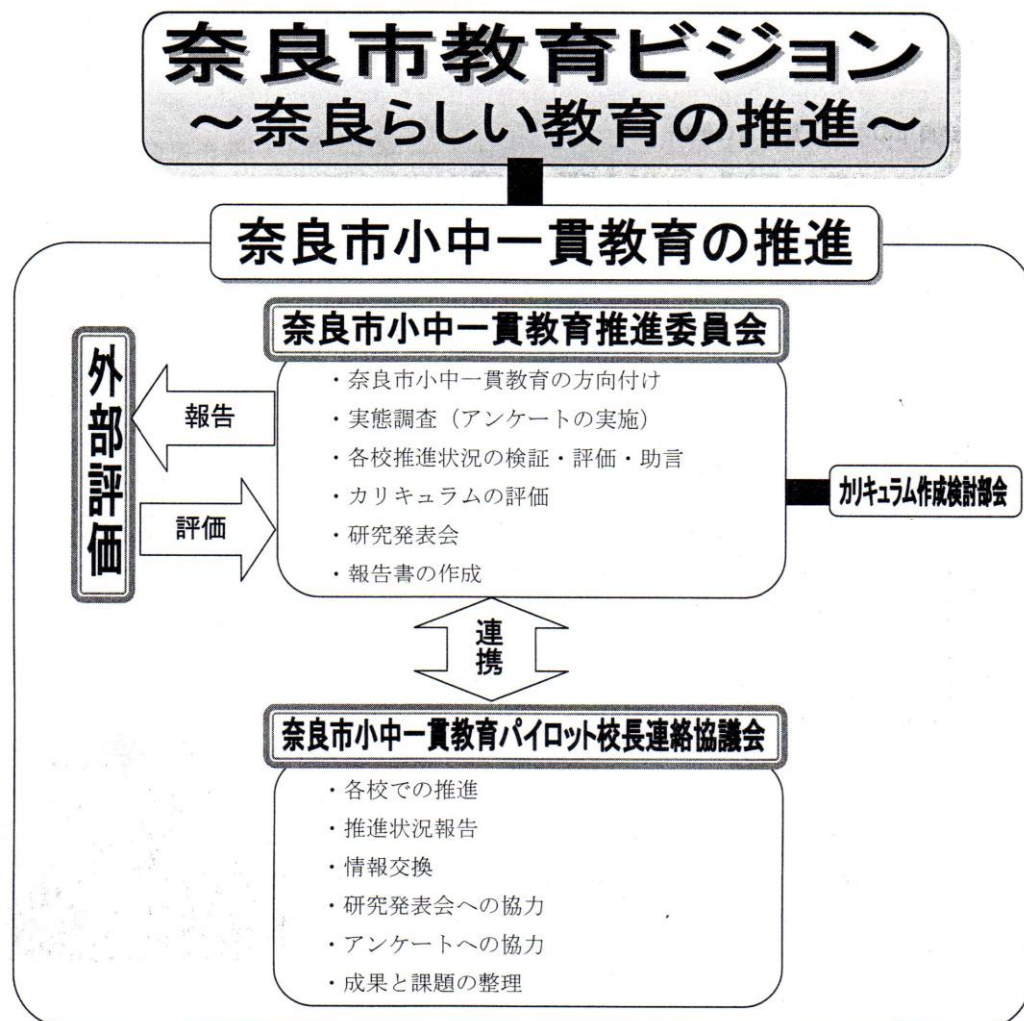
(1) テーマ 学びをつくる・学びでつなぐ

～小中一貫教育で育つ確かな学力～

(2) 奈良市の小中一貫教育の展開について

- ・平成16年3月 「世界遺産に学び、ともに歩むまちーなら」小中一貫教育特区の認定を受ける。
- ・平成17年4月 奈良市田原小中学校(施設一体型)の開設
→複数回の研究発表会の実施、新設の中学校の開校や統合
- ・平成20年3月 平城西中学校区(施設分離型)が小中一貫教育パイロット校区の指定を受ける。
- ・平成23年4月 パイロット校(8小学校7中学校)を指定
- ・平成27年4月 小中一貫教育を全市展開する(計画)

(3) 奈良市教育ビジョン



(4) 平城西中学校区の実践内容

① 「なめらかな接続」

ア 学習；小6による中学校体験授業 → 小中橋渡し教材「学びのてびき」

イ 部活；小6による中学校部活体験

ウ さまざまな交流体験

・児童生徒交流 → 小中合同の体育大会競技種目（中1と小6の綱引き、台風の目）

児童会・生徒会交流活動

・小中交流授業・教職員合同研修 → 実務者会（毎月）、各教科部会（毎月1～2回）など

・地域とともに歩む小中一貫教育 → 地域美化活動での子どもリーダー

② 「新設3教科による学びのシステムづくり」

ア 英会話科（小学校1年生～）

・趣味や特技の発表，校外学習時の英語インタビュー，英語版ホームページ，海外とのビデオレター

イ 情報科（小学校3年生～）

・2小1中が同じパソコンシステムを使用（プレゼンテーション発表，ホームページ作成など）

ウ 郷土「なら」科（小学校5年生～）

・自然や文化，歴史に対する理解と愛情を育てる。（観光客に奈良を英語で説明する等）

③ 「確かな学力」

ア 言語活動の充実

・豊かな交流活動を円滑に行うためには，確かなコミュニケーション力が活動の基盤として重要。

「指導の重点と言語活動の指針」 前期（小1～小4）・中期（小5～中1）・後期（中2・3）

イ 学び続ける意欲と自信

・小6担任と中1担任との情報交換，フリー参観，小中合同の研修会及び講演会

(5) 成果と課題

① 成果

・「学びのてびき」の改訂作業を毎年実施することにより，小中教職員の協力体制が整うだけでなく，相互の授業力向上につながるヒントを得た。

・「指導の重点と言語活動の指針」を作成することにより，コミュニケーションの大切さ，「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」を含む幅広い学力の形成に関する共通理解を図ることができた。

・5年間の推進計画を立てることや，子どもの成長及び小中一貫教育のビジョンを共有することにより連帯感が高まった。

・校内および市立学校間ネットワークの活用により，情報共有の迅速化・効率化を図り，事務作業を軽減・簡素化する工夫が生まれた。

② 課題

・保護者および地域には小中一貫教育の意義があまり感じられない。前期・中期・後期のブロック活動の実態が見えにくい。

・子どもにとっても，小中一貫教育に対する意識が定着されていない。

4 感想

本校と奈良市全体で取り組んでいる小中一貫教育の実践状況を比較検討する上では，とても有意義な研修であった。とくに，「新設3教科」を設定し，学びのシステムを構築している点や小中橋渡し教材「学びのてびき」を作成している点など，今後の研修にいかしていきたい点や自校化していきたい点が多々見られた。反面，交流活動などの「小中一貫教育の外側」は確立してきたように思えるが，肝心の「中身」（確かな学力）が明確に映し出されなかった点は，本校の研究も含めて，小中一貫教育の大きな課題だと感じた。